

## A50a 東京大学木曾観測所におけるパブリックアウトリーチ活動

三戸 洋之、小林 尚人、宮田 隆志、猿楽 祐樹、青木 勉、征矢野 隆夫、樽沢 賢一、田中 由美子、吉井 謙、土居 守、中田 好一(東京大)

東京大学木曾観測所では、105cm シュミット望遠鏡、30cm 反射望遠鏡 (K.3T) を使ったパブリックアウトリーチ活動を行っている。主な活動は、『銀河学校』、『星の教室』、『公開日』の3つである。

『銀河学校』は、1998年から始まり今年で11回目を迎えた。対象は全国の高校生で、これまでの参加者はおよそ300名に達する。実習テーマは、小惑星、彗星、惑星状星雲、超新星残骸、球状星団、銀河系、銀河団、系外銀河など多方面にわたる。最近、多くの参加者が実習で行われた研究を1年かけてまとめ、発展させて、日本天文学会ジュニアセッションで発表することを希望し、木曾観測所ではそのサポートも行っている。

『星の教室』は、2002年から文部科学省「理科大好きプラン」に参加する形ではじまった。対象は長野県とその近県の中高生である。実習テーマは、「ハッブルの法則から宇宙年齢を求める」、「実験で探る光の性質」など、年間6回程度おこなわれる。最近では長野県下の高校から許容量を超える申込みを受けるほどの評価を得ている。

現在、このような活動に参加した複数の人は、全国の天文学関連の大学、大学院で研究を進めており、アウトリーチ活動の主題のひとつである、次世代の研究者を育成するという目的を果たしている。また、木曾観測所は『公開日』などの活動を通じて、地域の団体「木曾星の会」の設立に協力し、地域との連携関係を築いている。そのほか、多くの人に木曾観測所の活動を広くアピールすることで、天文学に対する理解、認識を深めてもらい、天文学全体の将来の発展のサポートを求めている。

本発表では、これら木曾観測所のアウトリーチの内容、その成果の詳細について発表する。また、アウトリーチ活動と研究活動の両立についての考察も行う。